

高松市主要公立高校 合格戦略ガイド： 保護者のための入試制度徹底解説

はじめに：お子様の未来を拓く、高校受験という重要な岐路

保護者の皆様、こんにちは。進学専門塾講師として、長年多くの生徒たちとこの道を歩んでまいりました。この資料が、皆様の不安を解消し、お子様の努力を最大限に実らせるための一助となれば幸いです。

中学3年生のお子様をお持ちの皆様は、いよいよ本格化する高校受験を前に、期待と同時に多くの不安をお抱えのことと存じます。「内申点とは具体的にどう計算されるのか？」「当日点は何点取れば安心できるのか？」「うちの子にはどの高校が合っているのだろうか？」といった疑問は、毎年多くの保護者様から寄せられるものです。

香川県の公立高校入試は、全国的に見ても内申点の扱いが非常に特徴的であり、その仕組みを正しく理解することが合格への第一歩となります。このレポートは、進学専門塾講師として長年蓄積してきたデータと分析に基づき、香川県、特に高松市の公立高校入試制度の核心部分である「内申点」と「当日試験」の関係性を解き明かし、お子様が志望校合格を勝ち取るための具体的な戦略を提示することを目的としています。

本日は、高松市内でも特に志望者が多い**高松高校**、**高松第一高校**、**桜井高校**、**高松西高校**の4校に焦点を当て、それぞれの学校の特色から合格に必要な具体的な点数まで、徹底的に解説してまいります。この資料が、皆様の不安を少しでも和らげ、お子様との対話を深め、そして最適な進路選択を実現するための一助となることを心より願っております。

第1部：香川県公立高校入試制度の完全理解

まず、合否判定の根幹をなす入試制度そのものを正確に把握することから始めましょう。

1.1 合否を分ける二大要素：内申点と当日試験

香川県の公立高校一般選抜は、主に2つの評価軸で合否が判定されます¹。

1. **調査書（内申点）**：中学3年間の学業成績を点数化したもの。**220点満点**です。
2. **学力検査（当日試験）**：入試当日に実施される5教科の筆記試験。**250点満点**です。

これに加えて、全受験生に面接が課されますが、合否の大部分は上記2つの合計点で決まります。香川県教育委員会は、この内申点（220点）と当日試験（250点）を「**同等に扱う**」と明言しています³。これは、配点比率がほぼ1:1であり、どちらか一方だけが良くても合格は難しく、両方の対策が不可欠であることを意味します。

当日一発勝負の学力検査（配点約53%）に対し、3年間かけて積み上げる内申点（配点約47%）は、いわば「持ち点」です。この持ち点が高いほど、入試当日のプレッシャーは軽減され、精神的な余裕が生まれます。例えば、目標とする合計点が400点の場合、内申点が210点あれば当日点は190点で済みますが、内申点が190点であれば当日点は210点必要になります。この20点の差は、各教科で4点ずつ上乗せしなければならない計算となり、本番の緊張状態では非常に大きな壁となり得ます。つまり、香川県の高校入試は「入試は3年生から」という考えは通用せず、中学1年生の最初の定期テストから既に始まっているのです³。

1.2 内申点の仕組みを解剖する：3年間の成績が未来を決める

香川県の内申点計算方法は非常に特徴的で、特に中学3年生の成績が極めて重要視されます。計算方法は以下の通りです¹。

- **中学1年生**：9教科の5段階評定の合計（最高45点）
 - 計算式：5点×9科目=45点
- **中学2年生**：9教科の5段階評定の合計（最高45点）
 - 計算式：5点×9科目=45点
- **中学3年生**：
 - 主要5教科（国語、数学、英語、理科、社会）：評定合計×**2倍**（最高50点）
 - 実技4教科（音楽、美術、保健体育、技術・家庭）：評定合計×**4倍**（最高80点）

- 中学3年生だけで最大130点

3年間の合計内申点：45点+45点+130点=220点満点

表1：香川県公立高校入試 内申点計算の内訳

学年	対象教科	計算方法	満点	累計満点
中学1年	全9教科	評定合計 × 1	45点	45点
中学2年	全9教科	評定合計 × 1	45点	90点
中学3年	主要5教科	評定合計 × 2	50点	140点
	実技4教科	評定合計 × 4	80点	220点

この計算方法で最も注目すべきは、**中学3年生の実技4教科の評定が4倍になる点**です⁴。これは、入試戦略上、絶対に見逃せない「隠れた得点源」と言えます。中3の実技4教科だけで

80点を占めており、これは**内申点全体の約36%**に相当します⁸。

具体的にその影響を見てみましょう。例えば、A君が中3の実技4教科でオール「5」を取った場合、内申点は5×4教科×4倍=80点です。一方、B君がオール「3」だった場合は3×4教科×4倍=48点となります。この4教科だけで**32点もの大差**がついてしまうのです。これは、中1・中2の2年間、全教科でオール4だった生徒（評定合計72点）とオール5だった生徒（評定合計90点）の差である18点を遥かに上回ります。保護者の皆様におかれましては、主要5教科だけでなく、音楽、美術、保健体育、技術・家庭といった実技教科の授業態度、提出物、実技テストにも細心の注意を払うよう、お子様にお声がけください。ここが合否を分ける大きな鍵となります³。

1.3 当日試験と「学習の診断」テスト：本番への羅針盤

学力検査（当日試験）は、国語・数学・英語・理科・社会の5教科、各50点満点、合計250点満点で実施されます²。この当日試験の得点力を測る上で最も重要な指標となるのが、香川県独自の中学生向け模試「

学習の診断」（通称：診断テスト）です。

診断テストは、成績や内申点には直接反映されませんが、出題形式や難易度が本番の入試に非常に近いので、志望校を決定する際の最も信頼性の高い判断材料となります⁹。中学校の先生方も、この診断テストの結果を基に進路指導を行います⁹。

診断テストの結果は、お子様の自信と、中学校の先生からの後押しに直結します。目標とする高校の合格ラインを診断テストで安定してクリアできていれば、自信を持って出願できます。逆に、点数が足りない場合、先生から志望校の変更を勧められることもあり、これが心理的な壁となってしまうケースも少なくありません。例えば、ある塾の見解では、診断テストで平均150点の生徒が高松高校に合格する可能性はまずない、とされています¹¹。

また、多くの塾や受験情報サイトでは、「診断テストの点数＝本番の点数」または「本番の点数は診断テストより10点ほど高く出やすい」という見方をしています¹⁰。これは、診断テストが既習範囲からの実力問題である一方、本番入試は中学3年間の総復習を終えた万全の状態で臨むためです。いずれにせよ、診断テストで目標点を取ることが、合格への最短ルートであることは間違いありません。

第2部：高松市主要4高校 徹底分析と合格目標点

ここからは、高松市内の主要な進学校4校について、それぞれの校風、教育内容、そして最も気になる合格目標点を具体的に見ていきましょう。

2.1 香川県立高松高等学校（通称：高高）

- **学校紹介 (School Profile):**

- **伝統と校風:** 1893年創立の歴史を誇る、県内トップの進学校です¹²。校訓はありませんが、校歌に謳われる「独立自主」の精神が尊重され、生徒の主体性を重んじる自由闊達な校風が特徴です¹²。校則は比較的緩やかで、生徒会活動や学校行事も生徒主導で活発に行われています¹²。
- **教育の特色:** 1コマ65分という他校より長い授業時間を採用し、深い学びを追求します。そのため、日々の予習復習が非常に重要になります¹²。2年次からは文系・理系コースに分かれ、補習的な内容から発展的な内容までを扱う「土曜講座」など、授業外のサポートも充実しています¹²。部活動は「校友会活動」と呼ばれ、加入率は100%を超えるほど盛んです¹³。

- **合格目標点 (Admission Targets):**

- **内申点:** 標準圏は200点です。安全圏としては210点以上が理想とされます。190点を

下回ると、当日試験で相当な高得点が求められる厳しい戦いになります⁵。これは、通知表のほとんどが「5」で、数個「4」があるレベルです¹⁶。

- **診断テスト:** 安定して**220点以上**を目指すことが合格への必須条件と言えます⁹。
- **当日試験と合計点:** 内申点との合計で**400点以上**が大きな基準となります⁵。内申点と当日点のバランスは以下の通りです。
 - 内申点190点の場合 → **当日点220点**（各教科平均44点）が必要⁵
 - 内申点200点の場合 → **当日点200点**（各教科平均40点）が必要⁵
 - 内申点210点の場合 → **当日点195点**（各教科平均39点）で合格圏内⁵
- **進学実績 (University Prospects):**
 - 県内では他を圧倒する進学実績を誇ります。東京大学、京都大学、大阪大学などの旧帝国大学や、国公立大学医学部医学科への合格者を毎年多数輩出しています¹⁸。令和6年度入試では、東京大学7名、京都大学16名という素晴らしい実績を残しています¹⁸。卒業生のほとんどが大学進学を希望し、その中でも最難関大学を目指す生徒が集まる、非常にレベルの高い環境です¹⁸。

2.2 高松第一高等学校（通称：一高）

- **学校紹介 (School Profile):**
 - **伝統と校風:** 県内唯一の市立高校で、創立96年を誇る伝統校です²⁰。文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されており、先進的な理数教育が受けられます²¹。新しく美しい校舎も魅力の一つで、文武両道を掲げ、活気のある学校です²¹。
 - **教育の特色:** 最大の特徴は、多様なコース制です。国公立大学を目指す「文理コース」、文系難関大を目指し海外研修も行う「国際文科コース」、理系難関大を目指す「特別理科コース」、芸術系大学進学に対応する「美術専門コース」、そして全国的にも評価の高い「音楽科」があり、生徒一人ひとりの興味や進路に合わせた専門的な学びが可能です²⁰。
- **合格目標点 (Admission Targets):**
 - **内申点:** 標準圏は**190点**です。理想は**200点以上**で、合格可能圏は180点からとなります¹⁶。これは通知表で半分以上の科目に「5」が並ぶイメージです²⁴。
 - **診断テスト:** **200点以上**が合格の目安となります⁹。
 - **当日試験と合計点:** 目標は内申点との合計で**380点以上**です²⁴。
 - 内申点180点の場合 → **当日点210点**（各教科平均42点）が必要²⁴
 - 内申点190点の場合 → **当日点200点**（各教科平均40点）が必要²⁴
 - 内申点200点の場合 → **当日点190点**（各教科平均38点）で合格圏内²⁴
- **進学実績 (University Prospects):**
 - 高松高校に次ぐ県内トップクラスの進学校です。大阪大学、九州大学、神戸大学などの難関国公立大学や、早稲田大学、慶應義塾大学、GMARCH、関関同立といった難関

私立大学へも多数の合格者を出しています²³。特に地元の香川大学や岡山大学への進学者が多いのも特徴です²⁵。専門分野に特化したコースを持つため、多様な分野で高い進学実績を上げています。

2.3 高松桜井高等学校（通称：桜井）

- **学校紹介 (School Profile):**

- **伝統と校風:** 生徒の自主性を尊重する校風で、自由な雰囲気があると評判です²⁶。香川県で初めてユネスコスクールに認定され、フェアトレード学習などの国際理解教育や環境教育にも力を入れています²⁸。
- **教育の特色:** 3年次には多様な「選択講座制」が導入されており、生徒が自身の進路希望に合わせて柔軟に時間割を組むことができます³⁰。これにより、国公立・私立問わず幅広い大学受験に対応できる体制を整えています。

- **合格目標点 (Admission Targets):**

- **内申点:** 標準圏は170点です。理想は180点以上、合格可能圏は160点からとされています¹⁶。オール4（176点）がひとつの目安となります。
- **診断テスト:** 最低でも170点、余裕を持つなら190点を目指すのが一般的です⁹。
- **当日試験と合計点:** 内申点と当日点の合計で340点～360点あたりがボーダーラインになると考えられます。内申点が160点台の場合は、当日試験で180点以上を取るなど、高得点を目指す必要があります。

- **進学実績 (University Prospects):**

- 卒業生の多くが大学に進学し、特に地元の香川大学や岡山大学、広島大学といった中国・四国地方の国公立大学に強い実績を持っています³¹。令和6年度は国公立大学に138名が合格しています³¹。関関同立など関西の有名私立大学への進学者も多数います³¹。最難関大学への進学は少数ですが、毎年着実に国公立大学合格者を輩出する地域の有力進学校です²⁸。

2.4 高松西高等学校（通称：西高）

- **学校紹介 (School Profile):**

- **伝統と校風:** 高松市西部の丘陵地に位置し、緑に囲まれた落ち着いた学習環境が魅力です³²。坂道での通学は大変ですが、その分、静かな環境で勉学に集中できます³⁴。「自立・連帯・創造」を校訓に掲げ、生徒一人ひとりの個性を伸ばす教育を大切にしています³⁵。アーチェリー部や書道部など、全国レベルで活躍する部活動も有名です³³。
- **教育の特色:** 1コマ55分授業を導入しており、授業の最後に設けられた「プラス5分」

を内容の定着や演習に活用しています³³。また、MDP（マイドリームプロジェクト）といった主体的な学びを促すプログラムも実施されています³⁷。

● **合格目標点 (Admission Targets):**

- **内申点: 標準圏は170点**です。**安全圏は180点以上**、合格可能圏は160点からと、桜井高校とほぼ同水準です¹⁶。
- **診断テスト:** こちらも桜井高校と同様、**170点以上**が目安となります⁹。
- **当日試験と合計点:** 目標は内申点との合計で**360点以上**です³⁸。内申点と当日点のバランスが重要になります。
 - 内申点160点の場合 → **当日点200点**（各教科平均40点）が必要³⁸
 - 内申点170点の場合 → **当日点190点**（各教科平均38点）が必要³⁸
 - 内申点180点の場合 → **当日点180点**（各教科平均36点）で合格圏内³⁸

● **進学実績 (University Prospects):**

- 安定して多くの生徒が4年制大学へ進学しており、特に国公立大学への進学実績は堅調です³⁹。令和5年度は国公立大学に130名（うち香川大学38名）が合格しています³⁸。関関同立にも51名が合格しており、幅広い進路希望に対応できる進学校と言えます³⁸。

表2：高松市主要4高校 合格目標点 一覧

学校名	内申点 (220点満点)	診断テスト目標点 (250点満点)	当日試験目標点 (250点満点)	合計目標点 (470点満点)
高松高校	安全圏: 210点 ～ 標準圏: 200点 可能圏: 190点	220点～	200～210点	400点～
高松第一高校	安全圏: 200点 ～ 標準圏: 190点 可能圏: 180点	200点～	190～200点	380点～
桜井高校	安全圏: 180点 ～ 標準圏: 170点 可能圏: 160点	170点～	160～170点	340点～
高松西高校	安全圏: 180点 ～ 標準圏: 170点	170点～	170～180点	360点～

	点 可能圏: 160 点			
--	-----------------	--	--	--

注：上記の点数は、各塾や情報サイトから収集したデータを基にした目安です。実際のボーダーラインは、その年の倍率や問題の難易度によって変動します。

表3：近年の大学合格実績 比較（令和5～6年度延べ人数・抜粋）

大学群	高松高校	高松第一高校	桜井高校	高松西高校
東京大学・京都大学	23名 (R6) ¹⁸	ほぼ0名 ²⁵	0名 (R6) ³¹	1名 (旧帝大) ³⁶
他の旧帝国大学等	31名 (R6) ¹⁸	17名 (R5) ²⁴	3名 (R6) ³¹	1名 (旧帝大) ³⁶
早慶上理	46名 (R6, 早慶のみ) ¹⁹	15名 ²²	3名 (R6, 早慶のみ) ³¹	2名 (R6, 早慶のみ) ⁴⁰
関関同立	144名 (R6) ⁴¹	120名 ²²	67名 (R6) ⁴²	51名 (R5) ³⁸
香川大学	17名 (R5) ⁴¹	44名 (R4) ²³	42名 (R6) ³¹	38名 (R5) ³⁸

注：合格者数は過年度生を含む延べ人数であり、各資料の集計年度が異なるため、あくまで傾向を把握するための参考値です。

第3部：合格を勝ち取るための戦略的アプローチ

入試制度と各校の目標点を理解した上で、具体的な対策についてお話しします。

3.1 基礎を固める：内申点最大化への道

- 「受験は中3から」は間違い：香川県の入試では、中1・中2の成績が90点分を占めます。

この時期に評定「3」と「4」では、2年間で18点もの差になります。早い段階から定期テスト対策を徹底し、提出物を期限内に丁寧に仕上げ、授業に真摯に取り組む姿勢が不可欠です²。

- **中3は実技教科で差をつける**：前述の通り、中3の実技4教科は合否を左右する最重要ポイントです。ペーパーテストの点数が伸び悩んでいる生徒でも、実技教科で評定「5」を目指すことで、内申点を大きく引き上げることが可能です⁸。得意な実技があれば、それは強力な武器になります。
- **定期テストこそ内申点向上の主戦場**：内申点の評定は、定期テストの点数が最も大きく影響します。診断テストの対策と並行し、学校の定期テストで確実に高得点を取ることが、内申点アップの鍵です。

3.2 本番で実力を発揮する：当日試験攻略法

- **診断テストを徹底的に活用する**：診断テストは、単なる力試しではありません。間違えた問題を分析し、「なぜ間違えたのか」を突き詰めることで、自分の弱点を洗い出す最高の教材となります⁴³。特に中3の第3回から第5回の平均点が、三者面談での最終的な志望校決定に大きく影響しますので、一回一回のテストに真剣に取り組むことが重要です¹⁰。
- **自分だけの「得点戦略」を立てる**：合格最低点を突破するために、5教科すべてで同じ点数を取る必要はありません。例えば桜井高校合格に当日160点が必要な場合、「得意な理科と社会で40点ずつ稼ぎ、苦手な数学は30点、国語と英語は35点ずつ取る」といった具体的な目標設定が有効です³。これにより、学習の優先順位が明確になります。
- **近年の出題傾向を掴む**：近年の香川県の入試問題は、大学入学共通テストの影響を受け、単なる知識の暗記だけでは解けない、思考力や記述力を問う問題が増加傾向にあります⁴⁴。
 - **国語**: 60字以上の記述問題など、表現力が問われます⁴⁵。
 - **数学**: 計算問題の配点が約3割を占めるため、速く正確に解く練習が必須です⁴⁵。
 - **英語**: 長文読解が中心ですが、基本的な文法理解が鍵となります⁴⁴。
 - **理科・社会**: 資料や実験結果から考察する問題が増えており、単なる一問一答形式の学習では対応が難しくなっています⁴⁵。

過去問演習を通じて、時間配分や問題形式に慣れておくことが、本番での得点力に直結します。

結論：お子様に最適な一校を見つけるために

本日で説明いたしました通り、高松市の公立高校入試は、内申点と当日試験という2つの軸で総

合的に評価されます。そして、合格目標点という「学力」の物差しだけでなく、各高校が持つ「個性」や「校風」も、お子様の3年間で左右する大切な要素です。

- **高松高校:** 圧倒的な学力と自主性を武器に、全国の頂点を目指す生徒のための学校。
- **高松第一高校:** 科学、国際、芸術など、明確な目標を持つ生徒が専門性を伸ばせる学校。
- **桜井高校:** 自由な校風の中で、自分のペースで学び、地域社会の中核を担う大学を目指す生徒に適した学校。
- **高松西高校:** 落ち着いた環境で、学習と部活動にじっくりと取り組み、着実に実力をつけたい生徒のための学校。

最終的に大切なのは、偏差値や進学実績のランキングだけで判断するのではなく、**お子様の性格、興味、そして将来の夢に最も合った環境を選ぶこと**です。今回の情報が、お子様と進路について深く話し合うきっかけとなり、後悔のない選択をするための一助となることを心より願っております。ご清聴いただき、誠にありがとうございました。